

# 進捗報告書（実行団体）

事業名:	じじっかファミリープログラム事業
資金分配団体:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	一般社団法人umau.
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	ひとり親家庭を中心とした困窮家庭

Version 1.2

日付：2022年1月9日

## I. 事業概要

事業概要
新型コロナウイルス漢検拡大に伴い、ひとり親家庭の更なる困窮と孤立が悪化している現状に、相互扶助の関係性を築き、節約やスキルアップ、プラスαの収入を目指せると共に、子育てにおける課題を共有し血縁のない大家族の縁を紡いでいくことで、孤立を抑制し、ひとりひとりが自立していく事を目指すプログラムの構築をはかる。

## II. 進捗報告の概要

総括
目標としていた計画や目標にはやや遅れはあるものの、ひとりひとりに誠実に対話を繰り返し、プログラムへの参画や意識が向上していく現場の現状を感じ取っています。関わるひとり親がスタート時から30世帯ほど増加し、親子食堂なども活発に動いている。プログラム構築にあたり、スタッフ数が足りない、もしくはスキル不足の点が現在の課題である。残りの1ヶ月半程の日程で、プログラムの参加人数を増やしていきたい。

## III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
プログラム参画会員目標ファミ族100名・大黒柱50名目標/意識調査（生活満足度）	<p>ファミ族65名/大黒柱8名・意識調査は2月上旬に実施予定</p> <p>【把握している利用者等のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・40代女性 子ども小学3年生女子 病院より血液の数値が上がりすぎ、足の浮腫みが酷く歩行も困難に。入院の勧奨。受診の間にじじっかを市役所から紹介され週末のご飯を食べ始めた。入院前の採血で5年間下がらなかった数値が劇的に下がった。入院も不要になり、児童相談所に子どもを預けずに済み、足の浮腫みもなくなり子どもと元気に過ごしている。医者からは「じじっかに必ずいくように」との指示。</li><li>・30代女性 子ども保育園児2人 じじっかごはんとフードバンクの提供を受けるようになって家計の食費が3万円減った。</li></ul> <p>(若年層からのコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・私は1人じゃ無いって思える。</li><li>・1人1人の声を聞いてくれる。</li><li>・沢山の家族の経験などを聞いて学べる。</li><li>・コロナ禍でオンラインで皆さんと繋がれる。</li><li>・解決策を一緒に考えて頂いた</li></ul>

活動	進捗状況	概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子食堂週2回の開催</li> <li>・寄付の窓口設置</li> <li>・じじっかショップの展開</li> <li>・じじっかのべんり屋推進</li> </ul>	ほぼ計画通り	<p>地域食堂は毎回90名ほどの食事を提供・配達実施している。</p> <p>寄付の窓口については、多数の協力があり倉庫を新たに借りないと整理できない状態。新たな予算措置も検討中（予算獲得を目指す）</p> <p>じじっかショップは現在4名の出展者と1月中旬に4名追加予定・べんり屋も約12名の人たちがプラスの収入を得て、生活基盤の向上に繋がっている。</p>

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>当事業終了後、1年後の収支計画を利益100万円とし、主にじじっかのべんり屋の拡大とじじっかショップでネットショップを開設予定。参加している家庭の意識向上に向けて今後も取り組む。「じじっか」運営に関わりを深め、人手を増やしていきたい。</p> <p>じじっかファミリープログラムを構築するにあたり、寄付や事業費収入及び助成金獲得を通じて、じじっかの最低限運営していける収入を得て継続していける状態を保ち、当プログラムを地域市内に広めていく。また活動の中で見えてきた貧困世帯の課題に更にフォーカスし、寄り添い、相互の支えあいを基盤とする自主事業の展開を計画・実施していく。</p>

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥6,478,000	¥6,478,000	¥3,339,395	52%
	管理的経費	¥0	¥904,000	¥904,000	¥482,098	53%
合計		¥0	¥7,382,000	¥7,382,000	¥3,821,493	52%
補足説明		支出済みの一部の予算振り替えを実施していないため				

#### VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>プログラム構築の際に、参加家庭が抱える課題へのサポート等が増加し、ひとつの課題に取り組む時間やスタッフ数が足りていない現状。</p> <p>スタッフ自体が疲弊してしまわないように、プログラムの内容を簡素化し、仕組み化していく必要性を感じている。</p> <p>更に、活動の中で貧困世帯と呼ばれる家庭が就労に対して継続性が低いことがわかった。その理由として、ひとり親世帯など社会的孤立を抱える世帯にあっては家庭の維持に加えて、社会との責任が1対1であることに対応が追いつかず、更に貧困状態を悪化させているのではないかと。その点において今後も活動の視点を変え、取り組みを進めていきたい。</p>

## VII. その他

### 自由記述

私達はひとり親世帯を中心として、地域が抱える課題に対し、「相互扶助」の仕組みで解決を目指している。地域において共感が少しずつ広がっていると実感している。しかし、この活動を継続するための資金全てを賄うには足りていない。そこで、地域の企業、団体、また個人会員の輪を広げていくことを基本としつつ、基盤が整うまでの間は休眠預金事業で獲得した事業構築の力、実施の力等を活用して助成金等へのチャレンジも継続していく。関係団体、ステークホルダーとの意見交換等を通じた連携の深化も模索していく。

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	
広報制作物等	有	広報用事業提案書
報告書等	無	

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	